状態 2 項目自尊感情尺度の再検査信頼性の検討

○箕浦 有希久¹ 成田 健一²

(関西学院大学大学院文学研究科 1 関西学院大学文学部 2)

Key words: test-retest reliability, state self-esteem, two-item self-esteem scale

目 的

時間間隔をおいた 2 回の測定データ間の相関である再検査信頼性の高さは、尺度が時間や状況を越えて安定的に測定概念を測ることができるということの指標として用いられる。そこには測定概念の経時的安定性（時間的一貫性）が前提として存在する。つまり、測定概念が時間の経過を通じて安定的な真値をもつと考えられるものでなければならない。たとえば、パーソナリティのような特性概念が挙げられる。

特性概念とは対照的に、状態概念の測定尺度の再検査信頼性はこれまで検証されにくかった。なぜなら状況が変われば状態概念は変化して当然のものであり、時間間隔をおいた真値の安定性という前提が成立しないためである。しかし、状況の変化を含めて個人差の一貫性をとらえる視点もある。たとえば首尾一貫性（coherence）は、個人と状況の関係性の中でみられる一定のパターンが、個人間で時間を越えて安定しているか否かを意味する一貫性概念である（若林，2009）。

本研究では、状態 2 項目自尊感情尺度の再検査信頼性の検討を試みる。個人差の首尾一貫性を前提とするならば、ある特定の状況におかれた個人の心理状態は、時間間隔をおいて同一の個人が再び同じ状況におかれた場合に、同じ心理状態が再現されると考えられる。この仮定に基づくならば、質問紙実験により被験者に 2 回同じ状況を経験させる方法によって、状態概念の心理尺度の再検査信頼性の検討が可能になる。

方 法

■参加者： 関西圏の学生 220 名（男性 35 名）。平均年齢 19.21 歳（SD=0.85）、年齢範囲は 18 歳から 22 歳。
■質問紙： 状態 2 項目自尊感情尺度（箕浦・成田，2016）“いま、自分にはいろいろな良い素質があると感じる”“いま、自分のことを好ましく感じる”。状態自尊感情尺度（阿部・今野，2007）9 項目。ともに 5 件法評定（1. あてはまらない～5. あてはまる）。1 項目あたりの尺度得点平均値を算出した。
■独立変数のシナリオ： 状態自尊感情の変化と関連する代表的な場面である学業達成と対人関係について、出来事の結果がポジティブまたはネガティブな両シナリオを用意した。
■手続き： 講義時間中に質問紙を配布し、シナリオを読んで自分がその状況におかれた場合を想定して状態変数の心理尺度に回答するよう求めた。回答に対する報酬は無かった。被験者はランダムにネガティブシナリオ群とポジティブシナリオ群に割り当てられ、2 週間後に同一の質問紙を再び配布し回答を求めた。2015 年 9-10 月の調査時に 135 名、2016 年

11-12 月の調査時に 85 名の、それぞれ別サンプルから第一回・第二回測定の両回答を得た。

結 果

シナリオによる操作の有効性チェック シナリオ種別ごと・測定時点ごとに群間で尺度得点の差の検定を行ったところ、ネガティブシナリオ群よりもポジティブシナリオ群で有意に高い得点が、状態 2 項目自尊感情尺度（学業達成の第一回測定： $t(218)=15.57$ ，学業達成の第二回測定： $t(218)=18.64$ ；対人関係の第一回測定： $t(218)=11.03$ ，対人関係の第二回測定： $t(218)=9.82$ ）と状態自尊感情尺度（学業達成の第一回測定： $t(218)=22.58$ ，学業達成の第二回測定： $t(218)=27.26$ ；対人関係の第一回測定： $t(218)=15.46$ ，対人関係の第二回測定： $t(218)=17.20$ ）の双方で確認された（すべて $p<.001$ ，平均値と標準偏差は Table 参照）。

状態尺度の信頼性の検討 群ごと・測定時点ごとに算出した Cronbach の α 係数の範囲は、状態 2 項目自尊感情尺度が .78-.85、状態自尊感情尺度が .83-.89 であった。再検査信頼性係数と、群内で第一回・第二回の測定時点間における尺度得点の差の検定を行った結果を Table に示した。

考 察

状態 2 項目自尊感情尺度の内的整合性は、総じて十分に高かった。再検査信頼性係数もすべて .70 以上と十分に高い値であり、なおかつ、シナリオ群内で 2 週間隔をおいた状態自尊感情得点の平均値には有意な差が見られなかったことから、首尾一貫性の前提のもとで、状態 2 項目自尊感情尺度および既存の 9 項目の状態自尊感情尺度の再検査信頼性を確認できたといえる。

本研究では状態自尊感情の測定尺度を用いて、これまで検証されにくかった状態概念の再検査信頼性の検討を実際に試みた。首尾一貫性の前提のもと、状態概念の測定尺度の再検査信頼性を確認できることが示唆された。この方法を援用することによって、状況と個人内特性の相互作用に注目する諸研究において、信頼性の高い測定を行うことができるようになるだろう。

引 用 文 献

箕浦 有希久・成田 健一（2016）. 2 項目自尊感情尺度を用いた状態自尊感情の測定—実験的に操作された場面想定法による妥当性の検討— パーソナリティ研究, 25, 151-153.
(Yukihisa MINOURA, Ken'ichi NARITA)

Table
状態自尊感情尺度の再検査信頼性と群内における測定時点間の尺度得点の差の検定結果

シナリオ 種別	再検査 信頼性 係数	ネガティブシナリオ群($n=111$)						ポジティブシナリオ群($n=109$)					
		第一回 測定		第二回 測定		within t 検定		第一回 測定		第二回 測定		within t 検定	
		m	SD	m	SD	t 値		m	SD	m	SD	t 値	
状態2項目自尊感情尺度 (箕浦・成田, 2016)	学業達成	.82 *	1.91	0.81	1.80	0.82	1.35 <i>ns</i>	3.78	0.97	3.87	0.83	1.32 <i>ns</i>	
	対人関係	.71 *	2.09	0.86	2.11	0.94	0.35 <i>ns</i>	3.37	0.87	3.37	0.95	0.05 <i>ns</i>	
状態自尊感情尺度 (阿部・今野, 2007)	学業達成	.89 *	2.02	0.73	1.94	0.73	1.24 <i>ns</i>	4.14	0.66	4.26	0.51	2.11 <i>ns</i>	
	対人関係	.85 *	2.25	0.77	2.24	0.77	0.18 <i>ns</i>	3.77	0.68	3.88	0.65	2.12 <i>ns</i>	

注1) * $p<.004$ ，検定の多重性を考慮して5%の有意水準をBonferroni法で補正した。

注2) 尺度得点はすべて1項目あたりの平均得点を算出した。